

事業名称	産官学民連携によるオール河内長野の地域活性化事業(事業期間:令和6年度～令和8年度)
事業の目標	河内長野市は、昭和40年前後からの大規模な住宅団地の開発により、ベッドタウンとして発展したまちである。しかし、全国的な少子高齢化の例に漏れず、また団塊の世代が大量に退職し始めた平成16年度以降、個人市民税の減少幅が大きくなってきたことから、ベッドタウンとしての市政の在り方が問われており、企業誘致や市内事業者の活性化、観光等関係人口の増加により、市内で経済活動を発展させていくとともに、市民が住み続けたいと感じられる、豊かな生活が送れる基盤整備が必要である。 また、経済的な発展だけでなく、真に豊かな生活を送ることが可能なまちとなるために、産業活動だけでなく、地域活動や個人のライフスタイルなどとも上手く連携し、市内事業者と市民や、NPO法人等の団体とのつながりなど、事業者・団体・市民間の有機的なつながりを生み出すことでまちの賑わいを創出するとともに、それらを市外にも効果的に発信することで、地域外の関係人口や交流人口の増加を図る必要がある。 このように市政転換が必要である中、本市では公共施設や農地の区画整理による産業用地化に伴う企業誘致や、道路整備による交通網の強化など、大きな整備事業の計画が進んでいる。さらに、令和6年度は市制70周年という節目を迎え、また、令和7年度、2025年には「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした大阪・関西万国博覧会が開催され、未来社会の「共創」や、先端技術の活用などをコンセプトとした取り組みが市内外で活発に取り組まれることとなっている。 これを絶好の機会と捉え、市内事業者やNPO法人等の団体、市民とともに行政が一緒になって様々な地域資源を発信する事業を推進することで、それら関係者の「つながり」により、相互に影響しあって相乗効果を生み出し、団体や個人が市に愛着や誇り、「住み続けたい」と感じる、豊かな暮らしができるまちをめざす。また、それら関係者の「つながり」によるオール河内長野でのまちの魅力発信により、多くの関係人口が流入し、その結果、定住人口が増加し、若い世代が流入することで、人口バランスが健全化し、多様な住民が住み続けている豊かなまちを目指す。
全体の概要	市民・市内事業者・関係団体・行政、各分野の関係者が参画する「Kawachinagano FUTURE FACTORY(KFF)」を組成し、市の重要な資源である「食」「歴史・文化」「地域活動」「健康」「企業活動」「森林」の地域資源をテーマとし連携事業を創出。オール河内長野として創出した事業について、効果的かつ統一的に発信市内にレガシーとして継承される作品を遺すことで、一体感を醸成し、継続的につながりを深めながら、地域の活性化を図り、市の新しいまちづくりを推進する。

【数値目標(KPI)及び実績】

項目		事業開始前	令和6年度 (増加分)	令和7年度 (増加分)	令和8年度 (増加分)	累計
地域の人口・世帯数	目標	99,287	-3,303	-1,350	-1,300	-5,953
	実績		-1,928			-1,928
KFFオンライン コミュニティ参加団体・参加者数	目標	0.0	30.0	120.0	80.0	230.0
	実績		89.0			89.0
つながる河内 長野事業参加者	目標	0.0	1,000.0	1,000.0	500.0	2,500.0
	実績		2,050.0			2,050.0
KFF連携による 事業開催数(補助対象事業を除く)	目標	0.0	5.0	7.0	10.0	22.0
	実績		5.0			5.0
令和6年度の指標の状況及び事業への反映の考え方		「つながる河内長野」周知に向け市制70周年や万博の機運醸成に合わせた連携事業の開催により、「つながる河内長野事業参加者」は計画を大きく上回る実績が見込まれてる。また、市民・団体等の多数の関係人口が事業に参画したことによって、強固なつながりが創出され、「KFFオンラインコミュニティ参加団体・参加者数」及び「KFF連携による事業開催数(補助対象事業を除く)」の達成にも大きく貢献した。 令和7度は、市民や団体・事業者等からの意見聴取の結果、KFFメンバーの一体感を高めるため、市の魅力を表現した作品等をつくり、まちの魅力や地域資源であるKFF6分野を一体的にPRすることが必要であるとの意見があり、それらの意見を踏まえた事業実施により、より一層の「KFFオンラインコミュニティ参加団体・参加者数」及び「KFF連携による事業開催数(補助対象事業を除く)」の増加を図る。 あわせて、令和6年度の事業実績を踏まえ、本市のまちづくりに参画する学識者等から、大学生等の参画による新たな視点での地域活性化事業について支持があり、大学生等と駅前再生について検討したところ、地場産業や地域人材を活用した、河内長野市の玄関口である駅前商店街の賑わい創出や市民にとってレガシーとして継承されるシンボル製作などの提案が出され、それを受けてさまざまな主体が連携した駅前再生事業を実施することにより、「KFFオンラインコミュニティ参加団体・参加者数」「つながる河内長野事業参加者」「KFF連携による事業開催数(補助対象事業を除く)」の増加を加速させ、「地域の人口・世帯数」の上方修正につなげるものである。				

委員会評価	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略
デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 評価シート

事業名称	産官学民連携によるオール河内長野の地域活性化事業	
要素事業①	つながる河内長野推進にかかるKFF運営事業	担当課 営業部シティプロモーション課

令和6年度実施事業	実施内容	成果	事業費(千円)
	市民と行政の接点を強化する基盤としての市民参加型合意形成プラットフォームの運営を通して、市民とのつながりを重視したワークショップやイベント等の取組みの推進を図り、万博無料招待等への環境整備を実施した。 また「市民・行政・事業者・団体」によるコミュニティ組成に向けた、連携会議を開催し、円滑なコミュニケーションを図り、ワークショップやイベント実施に寄与した。	○つながる河内長野EXPOプロジェクトメンバー登録者89名 ○つながる河内長野事業推進に向けた連携会議計11回開催	10,518
	(合計)		10,518

担当者評価	【令和6年度評価】	【令和6年度の評価内容】
	①非常に効果的であった	市民と行政の接点を強化する基盤としての市民参加型合意形成プラットフォームにおいては、ワークショップ時に、システムを利用して、参加者が誰でも自由に、リアルタイムで意見交換できる場を設定し、活発な意見交換に寄与した。特に令和7年1月に開催した万博催事キックオフイベントにおいては、首長、市職員、事業者、市民ボランティア等が本仕組みを利用してワークショップを開催した。 また「市民・行政・事業者・団体」によるコミュニティの組成に向け、活発なコミュニケーションを図るため、連携会議を計11回実施し、市内催事実施に向けた連携強化を図る場の構築に寄与できた。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

改善	【今後の課題・取組みなど】
	・万博市催事における集客に向け、河内長野市らしい万博市催事の企画開発に取り組み、SNSやHP等を積極的に活用したプロモーション事業を展開し、1人でも多くの方に本市を知ってもらい、つながる河内長野EXPOプロジェクトへの参加メンバーの収集に取り組む。 ・万博終了後に、本事業で構築された「市民・行政・事業者・団体」により組成されたコミュニティにおいて、市内で万博催事の再現や、振り返りを行える催事を実施し、市民のさらなるシビックプライド醸成や、市外の方への市の魅力発信に努める。 ・つながる河内長野EXPOプロジェクトメンバーのさらなる活用について、庁内全体で検討を進める。

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略
デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 評価シート

事業名称	産官学民連携によるオール河内長野の地域活性化事業	
要素事業②	つながる河内長野推進事業	担当課 営業部シティプロモーション課

令和6年度実施事業	実施内容	成果	事業費(千円)
	「つながる河内長野」をメインテーマに、市民や地域がつながり、誇りや愛着を共感できる事業を目指して、市制施行70周年イベントを実施した。 さらに周年事業をひとつのイベントとして終わらせるのではなく、訪れたいまちづくりを目指して、2025年大阪・関西万博開催に向けた機運醸成イベントを実施した。	●市制施行70周年イベント「つながるフェスin河内長野」R6.5.19 来場者約20,000名、だんじり関係者約500名、小学生参加者約300名 ●つながる河内長野事業 ・大学生WS:参加者38名 ・市×事業者公演会:参加者30名 ・万博キックオフパーティー参加者 80名 ・プレ万博イベント来場者約1,000名	10,900
	(合計)		10,900

担当者評価	【令和6年度評価】	【令和6年度の評価内容】
	①非常に効果的であった	令和6年5月に実施した市制施行70周年イベントについては、大きな事故もなく、約20,000人の方が来場され、だんじり関係者の参加者は約500人、市内小学生と保護者の参加者は300人となり、市民のシビックプライドの醸成や、市外の方への魅力発信が達成できた。 また、つながる河内長野事業においては、連携会議を通じて、各事業者ごとに様々な取り組みがなされ、特に令和6年12月に実施した催事においては、本事業に賛同された市内事業者による連携事業(本事業の委託業務外)が5つも展開された。 さらに、令和7年2月に実施した、プレ万博イベントにおいては、約1,000人も来場されるイベントとなり、市民のさらなるシビックプライドの醸成を図ることができた。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

改善	【今後の課題・取組みなど】
	・河内長野市の万博市催事に向けて、本事業によって組成された「市民・行政・事業者・団体」によるコミュニティで連携を図りながら、企画内容等の検討を進め、市民のさらなるシビックプライド醸成や、市外の方へ市の魅力発信できる催事となるよう努める。 ・万博終了後に、そのレガシーを市に残し、新たなまちづくりやシビックプライドのさらなる醸成を行うための仕組み検討する。 ・新しいまちづくりを見据えて、大学と連携し、市内の高校生を対象とした授業展開による教育・人材育成にも取り組む。

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略
デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ） 評価シート

事業名称	産官学民連携によるオール河内長野の地域活性化事業	
要素事業③	つながる河内長野推進事業に係るオンライン会議同時配信環境整備事業	担当課 営業部シティプロモーション課

令和6年度実施事業	実施内容	成果	事業費(千円)
	「つながる河内長野」推進において、現場に來れない方も空間的制限を受けることなく、自由に参画できるオンライン環境を整備するために必要となる、ビデオカメラ、スイッチャー等の機器を導入した。	●ハイブリット会議システム購入 ・パソコン 1式 ・スイッチャー 1台 ・ビデオカメラ 2台 ・マイク 2台 ●オンライン配信 ・万博キックオフパーティー R7.1オンライン配信実施	643
	(合計)		643

担当者評価	【令和6年度評価】	【令和6年度の評価内容】
	①非常に効果的であった	万博催事に向けた、キックオフイベントにおいて、同システムを利用した、オンライン配信を実施し、当日会場へ來れない方に向け、空間的制限を受けずに参画できる環境を提供できた。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があつた」、「④効果がなかった」

改善	【今後の課題・取組みなど】
	・河内長野市の万博市催事については、市外で実施されることもあり、当日会場へ來れない方も想定し、同システムを活用したオンライン配信により、市催事に参画できる方を増やすよう努める。